

4

電機・電子・半導体

半導体関連企業が好調
製品のIoT化で、高付加価値を提供

製造業

流通・外食

食品

運輸・エネルギー

建設・不動産

IT・メディア・教育

金融・サービス

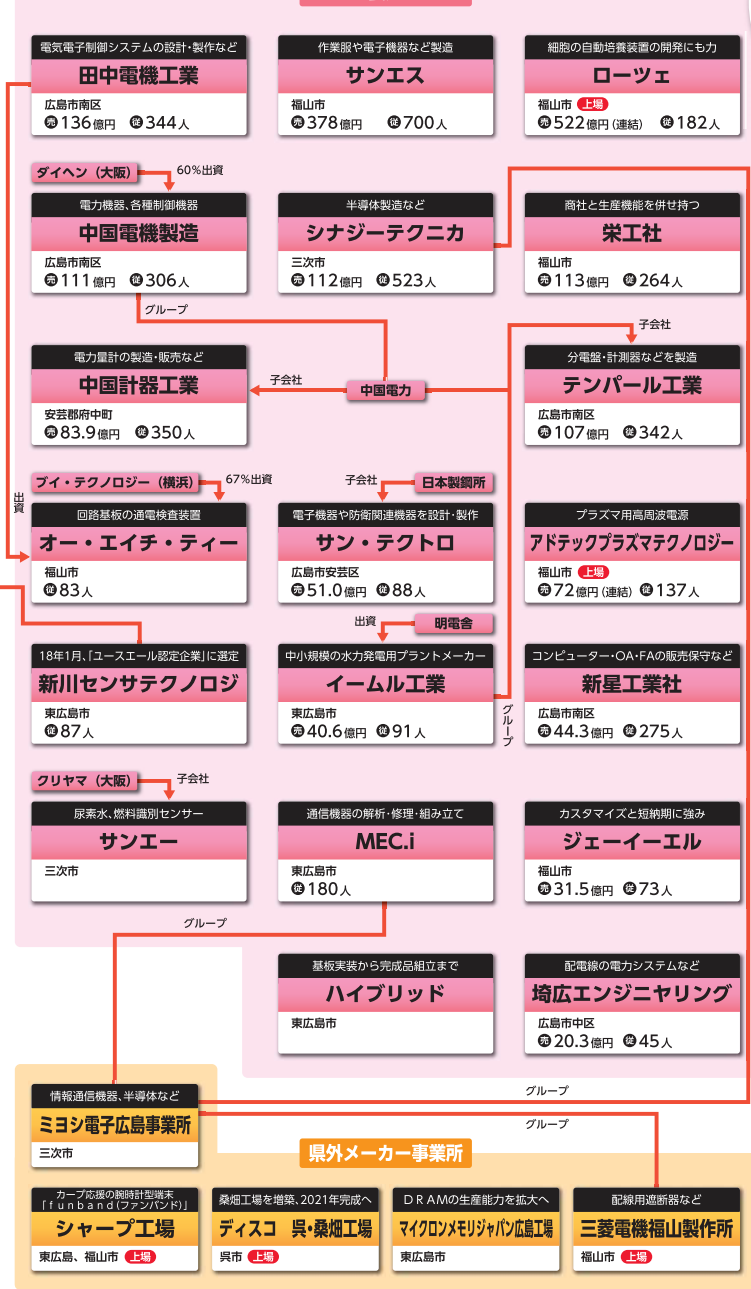
レジャー・自治体

ビックアップ
カブパーパー

商社・販社



製造



業界動向

2016年、台湾の鴻海精密工業がシャープを買収し、東芝が白物家電事業を中国の美的集団に売却するなど、業界の再編が本格化。海外メーカーが国内で存在感を強めている。

県内では、半導体関連などの企業が設備投資を積極的に進めるなど、市場をけん引。米半導体大手のマイクロン・テクノロジーは、子会社でDRAMの国内最大工場のマイクロンメモリジャパンの広島工場に大型投資を続け、次世代商品の量産体制を整える方針だ。精密加工装置製造のディスコ（東京）は、呉市にある主力の桑畑工場を増築を続けているほか、同市内で新工場の建設も検討している。またローツェ（福山市）は主力のウエハー（基板）搬送装置の受注増に対応し、ベトナム工場を増強中だ。

日本電機工業会によると、18年度の電気機器の生産額は世界経済の回復を受け、外需や設備投資を中心に穏やかな回復が続くとみられている。各社は買い替え需要を促すと共に製品のIoT化（モノのインターネット）化など、高付加価値製品にも力を注ぐ。国内生産は前年度比100%の5兆8263億円の見通し。